

泌尿器科の救急医療について



西条市医師会会員
市立周桑病院副院長
越智淳三

泌尿器科は主に、尿に関係した臓器と男性生殖器を扱う診療科です。

泌尿器科は救急疾患が多い診療科とはいえないかもしれませんが、その中で、緊急の処置を必要とするいくつかの泌尿器科疾患について述べたいと思います。

尿管結石

尿は「真水」ではありません。リン酸、尿酸など結晶をつくりやすい成分を含んでいます。腎臓内で尿の中にできた結晶が大きくなって「結石」ができてしまうことがあります。腎臓内にとどまっているとき

は無症状ですが、尿管という細い管の中を降りてくるときに尿の流れを詰まらせてしまうことがあります。

尿が流れなくなってしまうと、腎臓の中にたまった尿の圧力が高くなると腎臓の神経を刺激して、「激しい腹痛や吐き気」を起してしまうのです。蛇足ですが、女性はお産を経験するためか、女性より男性の方が痛みには弱いようです。屈強な男性が冷や汗をかいて七転八倒という場面もしばしばあります。

救急現場での治療は、まず痛みを和らげることですが、鎮痛剤の座薬が比較的よく効きます。



精巣(精索)捻転症

泌尿器科医師が緊張する疾患のひとつです。

精巣(睾丸)は陰嚢という袋の中にありますが、精索という紐のようなものでぶら下がっている状態です。この紐の中には血管や精管があります。この紐がねじれてしまうと、精巣に血液が流れなくなってしまう。血流が長時間止まってしまうと、精巣は精子を作れなくなってしまう。

この病気は10代、思春期前にかかることが多いので、この年代の患者さんが生殖年齢に達する前に精子を作れなくなってしまう可能性があるのです。

「突然に陰嚢が痛くなって腫れた」ときは、急いで泌尿器科を受診してください。緊急の処置が必要です。10代の患者さんが多いので、ご両親がよく注意してあげることがあります。

腎外傷

腎臓は背中の筋肉や肋骨に守られていますので、外からの力で損傷を受けることの少ない臓器です。しかし、交通事故、転落事故、スポーツをしているときなど、わき腹や背中を強く打撲したときには損傷することがあります。

腎臓を損傷すると、ほとんどの場合に尿に血が混じって血尿が出ます。「わき腹や背中を打って血尿が出た」とときには、すぐに病院を受診してください。

腎臓は血流の豊富な臓器です。わずかな損傷でもじわじわと出血して、結果的に大出血を起してしまうこともあります。

最近では、心臓や脳の病気のために「血液をさらさらにする薬」「血が止まりにくくなる薬」を飲んでいられる方が増えてきました。このような薬を



常用している方は、出血しやすい状態になっていますので、大事故や強い打撲でなくても大出血に至ってしまう可能性があります。

尿管

膀胱にたまった尿を体外に排出できなくなった状態を尿管閉といいます。「何時間もの間、尿意があってもオシッコが出ない」ので、膀胱内に尿が充満して尿意を通り越して痛みを感じたり、下腹部が硬くポッコリ膨らんできたりします。まるで、下腹部にソフトボールがあるような状態になります。

原因の多くは前立腺肥大症という高齢男性の病気です。大酒を飲んだあと、風邪薬を服用したことなどをきっかけに、急におしっこが出なくなってしまうことがあります。

泌尿器科で診療する病気の中から、四つの救急疾患について簡単に述べました。最後までお読みいただいた方の、いざというときのご参考にさせていただければ幸いです。